

学びのUD化

2026・4・22 重枝 一郎

「学びのユニバーサルデザイン(UD)」という言葉聞いたことがあると思う。本校も公立と同じように、特別な教育的支援や配慮が必要な生徒、小中学校時代に学校に通えなかった生徒など、学力差も含めて多様な生徒がいる。ただ、このような状況は特別ではなく、ほとんどの学校が今はそうである。そうした中、人との関係性を構築するのが難しい、教師の指示が伝わりにくい、グループ・ペアでのワークが成立しない、その結果として学力が定着しないという課題がある。そこで、すべての生徒が安心して学べる環境を整えるために、学びのUD化の取組がある。

「学びのUD化」とは、「授業づくり」「環境づくり」「人間関係づくり」の3つの観点を、日常的に積み上げていくことが必要になる。私もこのことは、常に念頭に置いて実践していた。私が「学びのUD化」を取り組もうとしたきっかけは、人権教育での、特設の人権学習の時間での「人権の知的理解」だけでなく、日常的に、すべての教育活動を通じて培われる「人権感覚の育成」の取組の重要性を思った時である。そのことを上の3つの観点到組み込む際、「特別支援教育の視点」を取り入れることが肝要であると認識した。今は、教科学習の学習プロセスにおいて、「協力・参加・体験」というワードは必ず入る。このことによって、「教科の学習目標の達成」と同時に「人権感覚」を積み上げていくことになっている。

下表の「学びのUD化チェックリスト(教師)」を見て、自分の授業を振り返ってみてほしい。

【授業づくり】
<input type="checkbox"/> 導入では生徒と本時の目標を共有している。 <input type="checkbox"/> 授業の流れと時間配分を黒板の端に提示し、生徒が見通しを持てるようにするとともに、集中力に配慮した授業構成を行っている。 <input type="checkbox"/> まとめでは、本時の目標に沿って振り返りを行い、生徒自身が意識や感情の変化を振り返ることができるようにしている。 <input type="checkbox"/> 板書でのチョークの色使いを明確に分け、その意味を伝えている。
【環境づくり】
<input type="checkbox"/> 1つの指示に対して1つの行動ができるよう指示している。 <input type="checkbox"/> 否定・命令・禁止の言葉でなく、肯定的で次の行動につながる言葉かけをしている。 <input type="checkbox"/> 教室前面は、必要なもののみを掲示している。 <input type="checkbox"/> 学年歴にに応じて、1日や1週間の予定を見やすく掲示するようにしている。 <input type="checkbox"/> 予定の変更は早めに伝え、視覚的にわかりやすく示している。
【人間関係づくり】
<input type="checkbox"/> 積極的に声をかけている。 <input type="checkbox"/> 些細な行動や、やって当たり前の仕事に対しても、お礼を言ったりほめたりしている。 <input type="checkbox"/> 良い反応や考えを取り上げ、全体で共有している。 <input type="checkbox"/> 間違いや失敗は否定せず、受け止めている。 <input type="checkbox"/> 意見を述べたり、調べたことを発表したりした後は、気持ちを込めて拍手をするように促している。 <input type="checkbox"/> ペア学習、グループ学習等、学習の形態を工夫している。 <input type="checkbox"/> 他者の考えを否定せず、学び合える雰囲気をつくっている。 <input type="checkbox"/> 一人一人が活躍したり、認められたりする場をつくっている。

